

# おめでとうすけ

## トンボちゃん



大阪府

一年 福井 伊織さん

アイデアコンテストに参加しようと思ったのは、どうしてですか。

ほかの人の発表を見ているときも、早く自分の番が来てほしいと思っていました。

アイデアは、メモしたり、絵にかいたりしているのですか。

いいえ。頭の中で、いろいろ考えています。たまに、ラキユーというブロックで作ったりしています。

コンテストに参加するときは、プレゼンすることまで考えていましたか。

はい。プレゼンまでしようと思っていました。最終審査会に出るのが、とても楽しみでした。

毎日、学校に行くときに、車で目の不自由な人とすれ違いま

す。ぼくが下を向いて歩いていて、その人に気が付かず、ぶつかりそうになって、びっくりしたこともありま。その時に、町を一人で歩くのは、怖くないのかなあと思いました。アナウンスがあったら、周りの人も気づくことができると思いました。そうしたら、目の不自由な人も普通に町を歩けるのに、と思ってトンボちゃんを考えました。

水たまりがあると濡れてしまうと、時間がわからないとか目の不自由な人が困ることは、どうして知ったのですか。

家族で食事をしている時に話す中で、気づいたこともありま。そこから、道を歩いているときに、考えが浮かんだこともありま。

立体作品を作るときに、工夫したところは、どこですか。

おじさんのために、周りの人が道を開ける仕組みを工夫しました。工作の本で調べて、磁石で人を動かすことにしました。

最初は、一人ずつバラバラに磁石をつけていました。そうすると、スケートをしているみたいにくるくる回ってしまつて、うまくいきませんでした。工作の本を見たり、お父さんとマグネットの仕組みを考えたり、いろいろ試しました。牛乳パックを使って、二人ずつペアにしたなら、予定通りまっすぐ進むようになりました。

トンボの視野が広いことを、帽子を使ってわかりやすく説明しましたね。つばが広がる仕組みは、どうやって思いつきましたか。

工作の本から、アイデアを取りました。扇のように折った折り紙をくつつけて、端に穴をあけて、レールを通しました。レールを通して広がる仕組みは、カーテンレールを見ていて思いつきました。

三年生の理科や四年生の算数で学習することを、一年生で使っているってすごいですね。

トンボちゃんの人形作りで工夫したところは、どこですか。

立体作品の中で、一番初めにトンボちゃんを作りました。トンボの顔を、かわいくしました。目の様子がよくわかるように、紙に丸をたくさん描いて、余った部分を黄緑でぬっていきま。トンボちゃんの胴体は、牛乳パックを細く切つて、中に入れてとめています。最初は、新聞紙を丸めて作っていたけれど、壊れやすかったので、作り直しました。



アイデアスケッチ

## 対話を重ね、アイデアをカタチに・・・

## 誰かのために役立つものを・・・

## 何度も何度もチャレンジする

トンボのことをよく知っていますね。

はい。虫が好きだから。特に、トンボとかカマキリとか、肉食の虫が好きです。トンボちゃんをオニヤンマにした理由は、黄色と黒緑が目立つからです。図鑑もたくさん持っていて、よく見えています。

作品を作っている時に何回も作り直して、途中で嫌になって、やめたくなりませんでしたか。

確かに。やめたくありませんでした。でも、発表が楽しみだったから、最後まで頑張りました。

バスを箱で作って、人を載せるアイデアは、図工の時間の作業をもとに考えたのですか。

いえ、国語の授業です。「じどう車くらべ」の学習した時に、お菓子の空き箱で車を作りました。それがとても楽しかったので、空き箱でバスを作って、おじさんが乗れるようにしました。車だけでなく、ビルも全部箱で作ることにしました。

チャレンジシートにたくさん説明の文を書いていますね。作文は、得意ですか。

学校で書く作文が、役に立つたと思います。説明の文章を書くのは、楽しかったです。生活科でも、花とか、育てている野菜とかを観察して、文章で書きます。

学校での学びが、活かされていますね。町の様子も、色遣いがきれいですね。



発表風景

最初は、箱のパッケージが見えるようなデザインにしてみました。作った作品をメールで学校に送って、先生にも見てもらいました。すると、先生が、「折り紙とかはってかくしたほうがいいんじゃない。」とアドバイスをしてくれたので、折り紙をはることにしました。

伊織さんは、お話（物語仕立て）をしながら、自分のアイデアを伝えましたが、お話にしようと思っただけでは、どういう理由からですか。最初は、紙芝居にしようと思っただけで、チャレンジシートに書いていましたね。

お話のほうが好きです。すごくよく遊ぶので、ゴールに向かって、おじさんが進んでいくお話にしたいと、思いました。お話の構成も、ドラマティックで、とてもいいと思います。

将来は、どんな仕事に就きたいですか。

昆虫博士に、なりたいです。ロボットも、作りたいです。

アドバイザーとしてのお母様から  
コンテストに参加して、自信がついたように感じます。苦手なことにも挑戦するようになりました。

このコンテストは、子どもの想像力、考える力、創り出す力を鍛えることのできるものだと思います。子どもも手探りの状態から始め、作り上げる体験をすることができたこともありがたいと思いました。

▼あとがき▼家族との対話を通して、アイデアが形になっていく過程がすてきです。(YM)  
▼お母さんと交わされる楽しい日常会話が伊織君の好奇心と探究心を高めているんだなと思いました。(NH)